



ドクダミの説明を聞くサークル員

6月定例会は檀原神宮前駅西出口を出発して線路沿いに岡寺駅の方へ進み、岡寺駅近くの近隣公園へ行くコースでした。線路沿いには結構いろいろな植物が茂っていました。

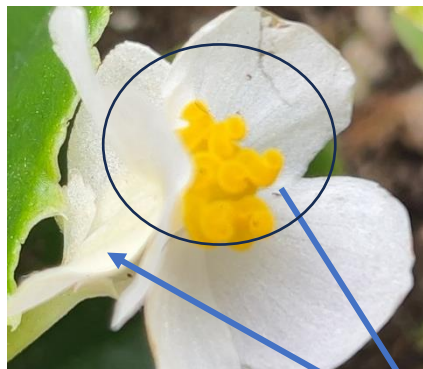
いつも山や川や林や森や田圃の広がっている自然豊かな所へ出かけているのですが、こんな町中にもいろいろな植物があるのが分かりました。

観察した植物

【ベゴニアの花】



ベゴニアの雄花



ベゴニアの雌花

子房

ベゴニアは同一株に雄花と雌花がある



ベゴニアの雌花

子房

ベゴニアの雄しべ

ベゴニアの雌しべ

【ドクダミ】



ドクダミ科ドクダミ属多年草

古くから民間の薬として重宝され十薬と呼ばれ、薬用のほかに食用、ドクダミ茶などに利用されてきました。

花期は5から8月。1から 3 cmの穂状花序をつけます。(花の集まり)雄しべは(3～8 個)葯(やく)は黄色。



花 雌しべ(花柱) 雄しべ(やく)

雌しべは(花糸は細長く基部で雌しべの子房に合着。白い雌しべの花柱は3または4個で反り返っています。4枚の白い花びら様の物は総苞。(そうほう。葉が変化したもの)日本のドクダミのほとんどは3倍体と言われ有性生殖をおこなわず、胚珠が無性的に種子になる(単為生殖)と考えられているそうです。

また、ドクダミには植物体全体に油細胞や分泌細胞・腺毛があり、アルデヒドやケトン、フラボノイド、フェノール化合物、タンニンなどを生成して、寄生微生物や食べられることに対する防御をしているのだらうと考えられているそうです。

【他に観察した植物】



アジサイの花

アジサイの装飾花(がく)



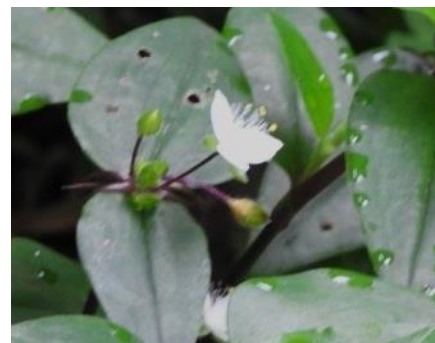
ガクアジサイ(アジサイ科)



マルバツユクサ(ツユクサ科)



マルバツユクサの花



トキワツユクサ(ツユクサ科)



アカカタバミ(カタバミ科)



カタバミ(カタバミ科)



オッタチカタバミ(カタバミ科)



カラスビシャク(サトイモ科)



ワルナスビ(ナス科)



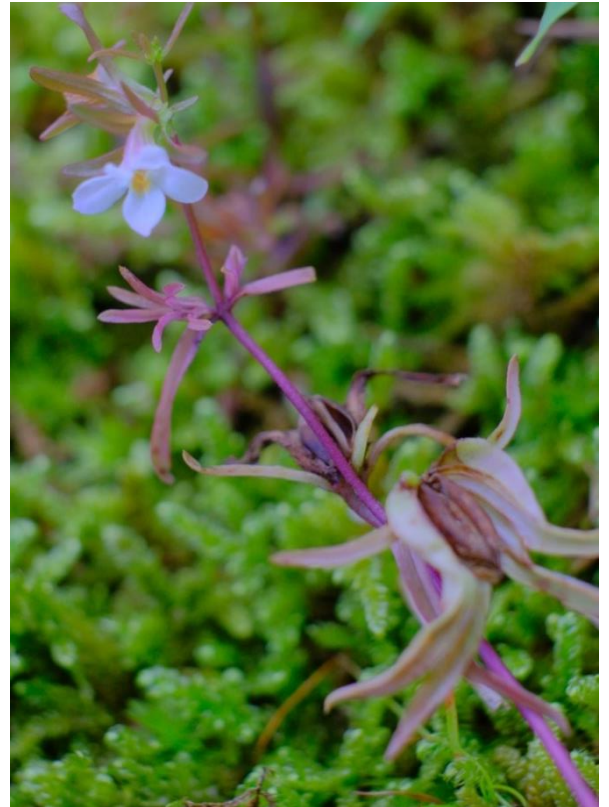
ムラサキツユクサ(ツユクサ科)

クチナシグサ(カガリビソウ)(ハマウツボ科)

関東地方以西四国九州に分布する半寄生の二年草(もしくは多年草)で丘陵地の乾いた草地に生育する。

茎は地を這い、長さ20～50cm、葉は対生し線形、花は茎の上部の葉腋(ようえき)につく。

花期は5～6月。花冠は淡紅紫色で唇形。花の萼は4裂し、萼筒は果期に長く伸びクチナシの実の形に似る。宿主はササカスゲの類と考えられている。



【風変わりな昆虫の幼虫】

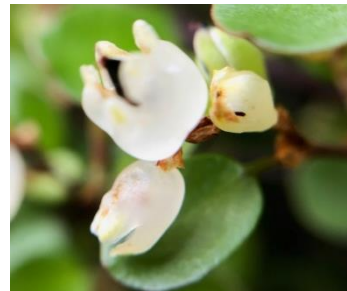
【ワイヤープランツ】(タデ科園芸種ミューレンベルギア属の総称)



カメムシの仲間ハゴロモ科の幼虫



ワイヤープランツ雄花と雌花



住宅地の中を散策した定例会でしたが、いろいろ珍しいものを観察することができました。
ここに掲載することができませんでしたが、訪れた公園の中には様々な木が植えられていて樹種の多さに驚かされました。ほぼ町中さんぽといってもいいくらいのコースでしたが、思いのほか様々な植物が観察でき十分満足できました。